

「 「 「 「

「 「 ☆高速道路会社の取り組み

.....

◆◇◆本四高速の地域連携事業の取組「インフラツアーの更なる推進」◆◇

(本州四国連絡高速道路株式会社)

本四高速では、インフラを国民が持つ資産として捉え、整備・維持管理・利活用の各段階において、工夫を凝らした新たな取組を実施するという「インフラ経営」の視点から、国民の重要な資産である本四高速道路の潜在力を引き出しつつ、新たな価値を創造することで、瀬戸内地域ひいては我が国全体の持続的な発展を支え、SDGs の達成に貢献していくことを目指しています。

本稿では、「インフラ経営」の視点から 3 ルートを構成する様々な形の橋梁を一つの観光コンテンツとして、一般の方が普段立ち入ることのできない管理用施設や、海峡部の長大橋梁の塔頂などを体験していただく「インフラツアー」の取組について紹介します。

「 「 「 「

「 「 ☆道路法令 Q & A

.....

◆◇◆境界地の道路の管理について◆◇◆

(国土交通省 道路局 路政課)

境界地の道路の管理について解説する。

「 「 「 「

「 「 ☆地域における道路行政に関する取組み事例

.....

★【E9】山陰道 大田・静間道路、静間・仁摩道路 開通★・*:.。

(中国地方整備局 松江国道事務所)

京都市から下関市を結ぶ一般国道 9 号のうち、島根県大田市の区間においては、急カーブや急勾配が連続し交通事故が多発しており、代替路線がないことから、交通事故や災害等の発生時には、地域の生活・経済活動に多大な支障をきたしている状況でした。このような問題の解決を目的として、山陰道の大田・静間道路、静間・仁摩道路が計画され、令和 6 年 3 月 9 日に開通しました。本稿では、当該道路の整備概要及び整備効果などについてご紹介

します。

.....

★岩手県広域サイクリングルート★°・*:.:

～魅力溢れる4つのルートが県内の33市町村をつなぐ～

(岩手県 県土整備部 道路環境課)

岩手県では、地域特性を生かした岩手県広域サイクリングルートを、令和7年度までに整備することとしています。本稿では、ルートの決定までの歩みや、今後の整備などについてご紹介します。

.....

★花巻PAスマートインターチェンジの整備について★°・*:.:

(岩手県 花巻市 建設部 道路課)

岩手県内において5番目となる花巻PAスマートインターチェンジは、令和元年度に事業を開始し、並行して連結道路である県道花巻和賀線、市道山の神諏訪線の整備を行い、令和6年3月20日に開通しました。当該スマートインターチェンジは、物流、医療、観光など、地域に多様な効果がもたらされることが期待されています。本稿では、整備概要及び整備効果などについてご紹介します。

「 「 「 「 _____

「 「 ☆編集後記

.....

春の大型連休。どこに出かけるにも混雑が予想されたので、衣替えに精を出すこととしました。すべての冬物を自宅で洗濯！！と意気込むも、干す場所に限りがあるため、天気予報と相談です。適度に風が吹き、カラリと晴れている日がたくさんあることを期待していましたが、強風、降雨、曇天など、想定していた天気と異なる日もありました。干場をやりくりしつつ、連休中にすべての冬物をしまい終えることができ、とても満足しています。

天気は、わたしたちの暮らしと密接な関係にあり、古来より研究の対象とされてきました。その昔は、空・雲・海の色と形、風向き、山の見え方、動物の様子などを観察し、「夕焼けがキレイなので、明日は晴れ」、「トンボが低く飛ぶ時は、雨」といったように天気を予想し、生活に役立てていました。これを「観天望気（かんてんぼうき）」といいます。現在では、アメダス、気象レーダー、気象衛星などの情報を利用した精度の高い天気予報が、インター

ネットやスマホのアプリで、いつでも手に入るようになりました。

わが国初の天気予報は、明治 17 年にまでさかのぼります。「全国一般風ノ向キハ定リナシ天気ハ変リ易シ但シ雨天勝チ（全国的にいろいろな方向への風が吹き、天気は変わりやすく、雨の方が多い）」という予報が、東京府の交番に張り出されたそうです。明治 21 年には新聞、明治 25 年には気象台の鉄塔に旗が掲げられ、その色と形で天気が伝えられるようになりました。そして、大正 14 年のラジオ放送を契機とし、天気予報は全国に広まってきました。昭和 28 年にはテレビで、昭和 30 年になると電話で聞くことができるようになりました。今でも、天気を知りたい地方の市外局番に続けて「177」をダイヤルすると、自動音声テープが流れて、予報を知ることができます。

最近では、大きな災害となることも多い局地的大雨（ゲリラ豪雨）や線状降水帯といった、新しい気象用語を聞く機会が増え、この予報は、大変難しいものだと聞きます。そして、近ごろ、身の危険を感じるほどの強風や、激しい降雨が長時間続くなどの天候が増えてきており、これから迎える雨の季節がとても気がかりです。『もしも』が訪れないことを願うばかりですが、『もしも』のときへの備え、防災の知識を身につけなければと思う今日この頃です。(U)